

事務事業名	農地法等許可事務	所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 農地法第3条、第4条、第5条等の許可申請について、申請内容を審査し、農業委員の現地調査を基に、農業委員会総会で審議する。 承認された申請について許可書を交付する。 農地、農業者に関する証明書の発行を行う。</p>	➔
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 許可申請者・証明書願出者</p>	➔
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 許可申請者及び証明書願出者の農地利用等の権利を確保する。</p>	➔
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 許可申請者及び証明書願出者の地位の安定と農業生産力の増進。</p>	➔

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	農地法第3条申請に係る審議件数	件
②	農地法第4条・第5条申請に係る審議件数	件
③	各種証明書申請件数	件

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	農地法第3条申請に係る審議件数	件
②	農地法第4条・第5条申請に係る審議件数	件
③	各種証明書申請件数	件

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	農地法第3条申請に係る審議件数	件
②	農地法第4条・第5条申請に係る審議件数	件
③	各種証明書申請件数	件

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	農地移動累計面積(H25～H30)	ha
②	認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円	7,078,400	7,062,510	7,051,000	7,051,000	7,051,000	7,051,000
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円	13,500	25,500	21,000	21,000	21,000	21,000
	一般財源	円	-6,806,502	-6,888,417	-6,789,000	-6,789,000	-6,789,000	-6,789,000
	事業費計(A)	円	285,398	199,593	283,000	283,000	283,000	283,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.4989	0.8733				
	人件費計(B)	円	3,881,225	6,809,951				
	トータルコスト(A+B)	円	4,166,623	7,009,544				
活動指標	①	件	71	77	77	77	77	77
	②	件	17	23	23	23	23	23
	③	件	27	51	51	51	51	51
対象指標	①	件	71	77	77	77	77	77
	②	件	17	23	23	23	23	23
	③	件	27	51	51	51	51	51
成果指標	①	件	71	77	77	77	77	77
	②	件	17	23	23	23	23	23
	③	件	27	51	51	51	51	51
上位成果指標	①	ha	4,798	5,471	-	-	-	-
	②	%	-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 農地法については、農業状況の変化により個々の項目において強化や緩和がなされ、その都度一部改正が行われるので、改正された農地法に基づいた審査をしていく。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 法令業務である限り、法令に基づき審査を行っていく。</p>
--	--

事務事業名	農業委員会連絡協議会等参画事業	所属部門	農業委員会事務局 農業振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 北海道農業会議参画 十勝農業委員会連合会参画 西部地区農業委員会連絡協議会参画</p>
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 北海道内の農業委員会 十勝管内の農業委員会</p>
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 他市町村の状況や活動内容を把握し、自らの町の活動に役立てることができる。また、個別の町では対応できない事業や要請活動などに取り組むことができる。</p>
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 円滑に農地行政が推進され、農業生産基盤の維持・充実が図られる。</p>

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	北海道農業会議拠出金の額	円
②	十勝農業委員会連合会負担金の額	円
③		

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	道内の農業委員会数	委員会
②	十勝管内の農業委員会数	委員会
③		

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	合理的に耕作されている農地の面積	ha
②		
③		

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	農地移動累計面積(H25～H30)	ha
②	認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	1,293,838	939,874	1,094,000	1,094,000	1,094,000	1,094,000
	事業費計(A)	円	1,293,838	939,874	1,094,000	1,094,000	1,094,000	1,094,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.0630	0.0991				
	人件費計(B)	円	490,113	772,777				
	トータルコスト(A+B)	円	1,783,951	1,712,651				
活動指標	①	円	281,100	281,100	281,100	281,100	281,100	281,100
	②	円	270,000	270,000	270,000	270,000	270,000	270,000
	③							
対象指標	①	委員会	170	170	170	170	170	170
	②	委員会	19	19	19	19	19	19
	③							
成果指標	①	ha	20,283	20,369	20,369	20,369	20,369	20,369
	②							
	③							
上位成果指標	①	ha	4,798	5,471	-	-	-	-
	②	%	-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 地域内での農地行政を円滑に進めていくために十勝及び西部との連携・連絡を行う必要がある。また、北海道農業会議については、農業委員会等に関する法律に基づき設置されている。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 円滑な業務を継続していくためには、引続き関係組織との連携を図っていく。</p>
--	--

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	農業後継者対策推進事業	所属部門	農業委員会事務局 農業振興係
町長公約	労働支援体制の整備と後継者対策の実現	公約達成年次	2020年
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕

- ・独身農業後継者の現状把握。
- ・独身農業後継者の婚活等の交流会の開催。
- ・独身農業後継者と結婚を希望する方への農業体験の実施。
- ・花婿対策の検討。
- ・芽室町農業後継者対策推進委員会等の運営。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕

家族経営が中心の農業経営となっており、農業経営を継続するためには後継者(男女問わず)のパートナーが必要である。

しかし、全般的な晩婚化や未婚率の上昇もあり、若年期から早期に対策を進めていく必要がある。

- ・一泊婚活イベントを実施したところ、一定の成果があり、また、参加者から非常に好評でさらなる成果も期待できることから継続していく。
- ・イベント後のフォローアップ、結婚相談会や結婚相談所への登録案内を行っていく。
- ・JA青年部等が実施する婚活事業への助成。
- ・専任相談員の配置に向けた検討。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	0	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	円	0	0	0	0	0	0
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.1178	0.2814				
	人件費計(B)	円	916,433	2,194,344				
	トータルコスト(A+B)	円	916,433	2,194,344				

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	家族経営協定事業		所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約				公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業	<input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	
	<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業	<input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕
 農家における農業従事家族員、特に女性や後継者の経営への参画と役割分担、適切な報酬配分などにより、長期的な経営の安定と家族員の地位向上を目的として、家族経営協定を推進している。
 ・家族経営協定締結の普及・啓発。
 ・家族経営協定合同調印式の開催(農業者年金加入についての説明も行っている)。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕
 町広報誌への掲載(農業委員会だより)や、重点啓発農家のリストアップ、農業委員による訪問等、地道な啓発活動を継続して行う。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0
投入量	人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0088	0.0661			
		人件費計(B)	円	68,460	515,445			
		トータルコスト(A+B)	円	68,460	515,445			

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	生前一括贈与事務		所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約				公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業	<input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみ	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	
	<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業	<input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕
 農地の細分化防止及び農業後継者を税制の面で支援。
 農地の贈与等に関する相談業務。
 税務署・十勝総合振興局への関係書類作成業務。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕
 新規に生前一括贈与制度を利用する方はいなくなっているが、現在、猶予を受けている方の継続届・異動届・免除等の関係書類の作成引き続き行っていく。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0
投入量	人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0655	0.0367			
		人件費計(B)	円	509,562	286,185			
		トータルコスト(A+B)	円	509,562	286,185			

事務事業名	農業委員会総会等運営事業	所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 農業委員による農業委員会総会の開催 三役等会議の開催 部会（農地・農政）及びブロック会議（河北・河西・河東）の開催</p>	→
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 農業委員</p>	→
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 総会に付議された案件を協議する。 議題となる事項を協議する。</p>	→
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 円滑に農地行政が推進され、農業生産基盤の維持・充実が図られる。</p>	→

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	農業委員会総会の開催回数	回
②	三役等会議の開催回数	回
③		

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	農業委員数	人
②	農業委員会総会で審議した議案の数	件
③		

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	原案可決した議案の数	件
②		
③		

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	農地移動累計面積(H25～H30)	ha
②	認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円	3,139,333	5,666,666	5,666,000	5,666,000	5,666,000	5,666,000
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円	270,239					
	一般財源	円	8,300,983	3,421,257	3,606,000	3,606,000	3,606,000	3,606,000
	事業費計(A)	円	11,710,555	9,087,923	9,272,000	9,272,000	9,272,000	9,272,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.3467	0.4605				
	人件費計(B)	円	2,697,175	3,590,957				
	トータルコスト(A+B)	円	14,407,730	12,678,880				
活動指標	①	回	13	12	12	13	12	12
	②	回	3	2	2	3	2	2
	③							
対象指標	①	人	17	17	17	17	17	17
	②	件	51	71	60	60	60	60
	③							
成果指標	①	件	51	71	60	60	60	60
	②							
	③							
上位成果指標	①	ha	4,798	5,471	-	-	-	-
	②	%	-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 平成28年度から農業委員の選出方法が、公選制から市町村長の任命制に変更され、また、農業委員会に関する法律第6条2項業務に対して、農地利用最適化交付金制度が創設され、活用している。(委員報酬)</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 運営状況を見ながら、随時、三役等会議などで協議し、必要に応じて見直しを進めていく。</p>
--	--

事務事業名	農業委員研修活動支援事業	所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 道内研修視察、札幌芽室会への参加。
2. 対象(何を対象にしているか) 農業委員
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 農業委員の資質向上
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 円滑な農地行政が推進され農業生産基盤の維持・充実が図られる。

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 研修等に参加した農業委員の延べ人数	人
② 参加(実施)した研修	回
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 農業委員数	人
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 新たな知識を得た農業委員数	人
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 農地移動累計面積(H25～H30)	ha
② 認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	306,746	364,221	421,000	421,000	421,000	421,000
	事業費計(A)	円	306,746	364,221	421,000	421,000	421,000	421,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.0500	0.0914				
	人件費計(B)	円	388,978	712,733				
	トータルコスト(A+B)	円	695,724	1,076,954				
活動指標	①	人	10	8	8	8	8	8
	②	回	4	3	3	3	3	3
	③							
対象指標	①	人	17	17	17	17	17	17
	②							
	③							
成果指標	①	人	10	8	8	8	8	8
	②							
	③							
上位成果指標	①	ha	4,798	5,471	-	-	-	-
	②	%	-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 農業委員は、法令事務等において判断の透明性や公平性、外部及び内部を問わずはっきり見える活発な活動や先進事例等の研修を通じて農地法等を理解し、地域の農業者にわかりやすく説明できるように求められている。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 実施する研修内容・方法を十分検討し、緊急性のあるものに重点的に取り組んでいく。また、道内視察研修等については、全委員の参加とせず、一部委員の参加とすることにより経費を削減し、研修委員から報告を受け、未参加委員と共有することで、研修成果を維持するとともに毎月開催される総会後の時間を活用するなど、研修機会を増やし、農業委員個々の資質向上を図る。
--	--

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	農業者年金協議会運営事業		所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約				公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業	<input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみ	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	
	<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業	<input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕

- ・会員の管理(加入受付・会費の収納等)
- ・年金協議会への加入促進
- ・総会等会議の開催
- ・視察研修の企画・実施

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕

視察研修が主な事業となってきたことから、今後の農業者年金協議会のあり方について検討していく。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0
投入量	人件費	正職員従事人数	人	2	3	3		
		人工数(業務量)	人工	0.0838	0.0508			
		人件費計(B)	円	651,928	396,136			
		トータルコスト(A+B)	円	651,928	396,136			

事務事業名	農業者年金申請等取扱事務	所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

1. 手段(事業の概要) 農業者年金に関する各種申請等の確認と農業者年金基金への届出、新規加入の推進と相談業務。
2. 対象(何を対象にしているか) 農業者のうち、農業者年金加入者及び加入対象者。
3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 農業者年金への加入。 各種手続き(受給・住所変更等)
4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 将来年金の受給が可能になり、高齢期の生活の安定につながる。そのことにより、現役世代が安心して農業に従事することができるため、町全体の農業生産基盤が維持される。

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 新制度受給者数	人
② 旧制度受給者数	人
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 農業者年金にかかる各種届出等の申請者	人
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 各種手続き完了者	人
② 新制度新規加入者数	人
③ 新制度加入者総数	人

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 1戸あたりの農業生産額	千円
② 認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円	2,256,600	2,259,700	2,259,000	2,259,000	2,259,000	2,259,000
	一般財源	円	-1,881,300	-1,983,619	-1,918,000	-1,918,000	-1,918,000	-1,918,000
	事業費計(A)	円	375,300	276,081	341,000	341,000	341,000	341,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.0795	0.3356				
	人件費計(B)	円	618,475	2,616,993				
	トータルコスト(A+B)	円	993,775	2,893,074				
活動指標	① 人		126	147	150	150	150	150
	② 人		546	535	530	530	530	530
	③							
対象指標	① 人		152	188	180	180	180	180
	②							
	③							
成果指標	① 人		152	188	180	180	180	180
	② 人		29	14	15	15	15	15
	③ 人		432	430	430	430	430	430
上位成果指標	① 千円		52,397	49,471	43,200	43,200	43,200	43,200
	② %		-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

1. 事務事業の現状と課題 旧年金制度は破綻し、平成14年度より新農業者年金制度が創設され、旧制度と新制度両方の加入者は、受給にあたり両制度の申請が必要である。	2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 広報誌を活用した情報発信や農業委員による地域への啓発活動により農業者年金制度の浸透を図るとともに、芽室町農業協同組合と連携した説明会を開催している。また、家族経営協定調印式に農業者年金政策支援制度等の説明を行い、経営主や経営主の配偶者への加入促進を継続していく。
---	--

事務事業名	農地あっせん・保有合理化事業	所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 申し出に基づき農地のあっせんを行う。 事案によっては、農地保有合理化事業を活用する。</p>	→
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 農地を売却したい人、貸付したい人。 また、申し出のあった農地について購入したい人、借受したい人。</p>	→
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 担い手となる農業者に集積できるようあっせんを行う。</p>	→
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 経営規模の拡大や農地の集団化を図り、効率的な農業経営をめざすとともに、担い手農業者の育成を図る。</p>	→

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	あっせんによる売買・賃貸借の件数	件
②	農地保有合理化事業による買入の件数	件
③	農地中間管理事業による賃貸借の件数	件

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	農地の売却・貸付希望者	人
②		
③		

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	農用地利用集積計画書の面積	ha
②		
③		

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	農地移動累計面積(H25～H30)	ha
②	認定農業者等の担い手への農地集積率	%
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円						
	その他(使用料等)	円	151,323	110,644	99,000	99,000	99,000	99,000
	一般財源	円	66,678	44,474	122,000	122,000	122,000	122,000
	事業費計(A)	円	218,001	155,118	221,000	221,000	221,000	221,000
人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.4400	1.0552				
	人件費計(B)	円	3,423,009	8,228,399				
	トータルコスト(A+B)	円	3,641,010	8,383,517				
活動指標	①	件	76	87	87	87	87	87
	②	件	5	8	8	8	8	8
	③	件	0	0	0	0	0	0
対象指標	①	人	51	60	60	60	60	60
	②							
	③							
成果指標	①	ha	413	433	433	433	433	433
	②							
	③							
上位成果指標	①	ha	4,798	5,471	-	-	-	-
	②	%	-	-	95.00	95.00	95.00	95.00
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 離農者があっせん農地を賃貸借しているケースが多い状況にあるため、賃貸借から所有への働きかけを進めている。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) これまでどおり、あっせん事業を中心とした農地集積を進め、農地保有合理化事業・農地中間管理事業については、事業のメリットを勧奨し、より一層活用を進めていく。</p>
---	--

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画
施策番号 2-1-1

事務事業名	農地交換分合事業		所属部門	農業委員会事務局 農地振興係
町長公約				公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業			

〔事業の概要・現状・課題〕
 農地交換分合事業は、分散している農用地を地域ぐるみの交換によってまとめる(集団化する)もので、概ね3カ年で行う。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕
 ここ数年、事業の実施はないが地域の意向を踏まえながら交換分合の実施可能地区を探るなど、引き続き事業実施の可能性について検討を行っていく。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円	0	0	0	0	0
投入量	人件費	正職員従事人数	人	2	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0000	0.0000			
		人件費計(B)	円	0	0			
		トータルコスト(A+B)	円	0	0			